四月の俳句

春嶺の三座仰ぎてランチかな　　　　　　文　子

花盛り吸ひ込まれゆく桃源郷

杉菜生ふ生き抜く力どこまでも

石仏の優しき御顔花曇　　　　　　　　鶴　子

ウオーキング眺む街湖花の山

境内の雨に散り敷く花筵